

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608990		
法人名	有限会社 ゆう愛		
事業所名	グループホーム サン・ピア		
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字熊野118番地1号		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成22年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年から委員会活動が活発に指導し現在11の委員会が年間の計画を消化しています。特に学習委員会での研修会や感染予防委員会のマニュアル作り等熱心に行っております。職員同士の連帯感も生まれてより落ち着ける場所となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの当ホームの隣に小規模多機能型居宅介護事業所が開設され、このことにより行政(町役場)との情報交換などが盛んになり、運営上プラスになっている。代表者は若い世代の職員育成にも熱心である。運営推進会議を活かした取り組みとして、健康づくりと介護予防のための「ゆるつぶらっ体操」を日中の活動に取り入れ、午後1時30分から行っている。賑やかな掛け声がホームから聞こえ、近隣に住む地域住民からも好感を持たれている。ホームの設立から7年が経過し、地域との交流も盛んになってきており、災害時を想定した避難訓練に近隣の方々も参加されるなど、助け合いの精神が築き上げられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念はリビングに掲示しており、全員が共有できているが、地域密着に関する意義は含まれているか不明。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスが地域密着型の意義であることを認識して、当ホームの理念「笑顔、やさしさ、ゆとりある生活を共に生きる」を唱え、職員全員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでのイベント時にはチラシを配布したり、回覧板の役回りも行っている。ホームを訪れて頂く機会を設けている。	創立から7年を経過し、普段の生活の中で近隣の人達が気楽に立ち寄るような間柄を築いている。地域の一員として求められる活動、役割を積極的に担う努力が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や研修会で機会を設けてはいるが、頻度は少なく感じられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録に残しており、様々な意見を共有することに努めている。参加者の顔ぶれがあまり変わらないように感じられる。	会議では事業所からの活動報告、出席者からの意見・要望・評価等を受け、有意義な会議となるよう配慮されている。会議での提案に基づいて、健康づくりと介護予防のための「ゆるっぶらっ体操」を取り入れ、利用者へのサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者が不明(スタッフ全員に周知されていない)	法人で小規模多機能型事業所を開設したことにより行政との連絡が密になった。町役場担当窓口には介護保険関係の手続き等で情報提供を得たり、事業者からも現状やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えていることを確認した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを全員で共有しており、拘束行為はしていない。全員が拘束のないケアに努めている。	代表者及び全職員は身体拘束をしないケアを正しく理解しており、さりげなく声をかけ、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置、また研修機会を設けており、全員が虐待につながらないケアを目指している。声を掛け合いケア内容の改善にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度や法律について学ぶ機会がなく、なかなか理解できていないように感じられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員は契約の締結・解約には直接関わらないが、契約後においては、ご本人だけでなくご家族の意見を伺いながらケアにあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催日のみならず、面会時、又電話連絡時にも意見要望を伺えるようにしている。	家族等の意見・不満・苦情等に関して、電話・面会・運営推進会議等で気楽に話してもらう機会を設けている。意見等は取りまとめて全職員で閲覧し、解決策を検討してサービス改善につなげている。	2年ほど前まで発行していた家族等へ向けた定期的な事業所便りについて、家族等の安心に繋がったり、事業所との相互理解を深めるためにも、継続して発行していくことが今後期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回、面接の機会は設けられているが、回数は少なく感じられる。	代表者は職員の要望や意見を聞くように常日頃から心掛けている。職員が利用者と日常的に関わる中で生まれる気づきやアイデアを取り入れて一緒に話し合い、最も良い方向を見付けて事業所の運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がその説明を受ける機会は設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修も多く開催されている。職員の意見が反映された内容の研修もあり、各々がスキルアップに努めている。社外研修も自主参加できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	直接ケアにあたる職員がその機会を得られることがほとんどない。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の事を知る意味でもお話される事にはよく耳を傾け、不安な気持ちに寄り添い要望を確認する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にお話を伺ったり、月末のお手紙で意見や要望をいつでも伺えるという旨をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を保ちながらも、一人ひとりを大切にし、寄り添い、寄り添われる関係作りを常に心がけてる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いが情報を提供しあう関係を築き、協力して頂ける部分はお願ひすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合いの方の協力も得ながら、又、馴染みある家具を使用して頂いたり、以前からの関係が途切れないように支援している。	利用者の知人、友人が事業所を訪問することが多い。また、職員は利用者を取り巻く人間関係を把握し、馴染みの美容院の利用や、墓参りを支援するなど、一人ひとりの生活習慣を尊重しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員にとって心地よい居場所となるよう、又、不快な思いをされないよう、気を配っている。ご利用者様同士の関わりあいも見守り師、必要あれば仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアも行われるようになり、最後までご本人、ご家族と関わる機会が増えているように感じる。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の好む生活リズムも大切にしながら、ご本人にとって必要なケアを取り入れられるよう検討している。	職員は利用者との日々の関わりの中で、言葉や表情などから真意をそれとなく把握している。意思疎通が困難な方にはジスチャーを取り入れるなどして、意向の確認に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートやご本人のお話から、その方を知るよう努めている。会話の際の表情や言葉から、快・不快も読み取れるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りはもとより、直接関わりながらさりげなく、又は本人に伺いながら心身の状態を観察している。一人ひとりのできることを見極めるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護員やケアマネ、他の職員が意見を出し合い、ご本人やご家族の希望も取り入れたプランを作成している。都度カンファレンス開催し、全員に周知できている。	その人らしく暮らし続ける為に、職員は利用者の視点に立ち、本人の意向や家族等の要望に沿って全職員による話し合いを行いながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他、申し送りノートにも記入し、ケア内容や特変、又気づきを職員全員が把握・共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全かつ、その方の身体の状態に合った用具を使用し、自らの力を活かし、生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望されたかかりつけ医と連携している。希望時、必要時に診療往診が受けられるよう支援している。必要な情報提供を随時行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。又、定期的に往診が受けられる体制ができている。受診や通院には本人や家族の希望に応じて付き添い、その結果を家族に伝えている。	かかりつけ医の連絡先を一覧表にまとめて職員に周知するなど、緊急時に備えた連絡網を一層整備していくことも期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調不良や変化も速やかにホーム看護師へ報告し、助言の下、受診の手伝いやケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に任せきりにせず、ホーム職員が面会に赴く時間を作り、情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期のケアについては、ご家族への説明が十分に満たされていると感じている。	今年に入り3回のターミナルケアを経験し、各家族から感謝されている。本人や家族の意向、事業所が対応出来る最大の支援方法等を踏まえて、早期から重度化や終末期に向けた方針を全職員で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習が定期的に行われており、実践練習も行っている。 日常ホーム内で起きやすい自己に関する初期対応については、知識が浅いと自分自身感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・震災に関しては、避難・防火訓練が行われている。 避難経路の確認・共有も行っている。水害に関する訓練は不足している。	火災、震災等に備えて定期的に避難・防火訓練が行われている。訓練には近隣町民の参加があり、地域との協力体制が整っている。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	恥ずかしいと思う気持ちやその方の誇りを大切に、さりげなく見守る・観察する工夫をしている。できることを奪うケアをしないよう心がけている。	一人ひとりの人格の尊重、尊厳ある姿を大切に、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけをしないことを全職員は認識し、対応している。又、利用者一人ひとりの守るべき情報を漏らさない方針も周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から希望を聞き出す・察するよう努めている。意見表出の難しい方にも、スタッフの簡素化した問いかけで決めて頂くよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション、その他の事柄に関しても、無理に声かけやお誘いはせず、その方の気分やペースを優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	朝の整容は鏡の前に利用者様と一緒に立ち行うようにしている。 衣類の乱れや汚れがある場合も言葉を選んで声を掛けたり、さりげなく直せるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き、取り入れる機会を設けている。材料の下ごしらえや食後の片づけを一緒に行えるよう支援している。	訪問当日は冬至であり、利用者が風邪を引かないよう願いを込めたカボチャ入りの昼食が用意されていた。職員と利用者は同じテーブルを囲み、楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている。食後には、利用者がおしぼりたたみに精を出す場面も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時やティータイムを活用し、水分を補うことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアをお誘いしている。 できる部分は見守りし、必要あれば声かけをし行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、失敗を減らす工夫をしている。又、排泄状況を見通し、綿パンツの使用を試みる等、自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を使用し、利用者の自尊心に配慮しながら身体機能に応じた介助をしている。トイレで排泄することを大切にし、綿パンツの使用を試みる等、利用者の状況に合わせて排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず、食材・食品での整腸に努めている(繊維・オリゴ糖) 日中、体操の時間を設け、体を動かす工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思や体調をお聞きしてはいるが、空き日数を見てのお誘いが多い。	入浴したい日や時間など、利用者本人の意向や体調に合わせて入浴を支援している。入浴を好まない利用者には職員も一緒に入り、安心感を持ってもらうなどの工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間を見ながら、声かけするようにしている。 日中でも疲れや眠気の観察をし、必要があれば声を掛ける休息を入れて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人記録にファイリングされており、副作用についてもすぐ確認できるようになっている。 用量・用法を守って服薬できるよう、のみ込みまで確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の一環として家事に参加して頂いたり、皆でテーブルを囲んでレクリエーションを行ったりと、メリハリのある生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は近所へ散歩に出かけたり、スタッフと買い物へ出かける機会がある。又、希望やお誘いにてドライブで気分転換を図ったりもしている。	利用者の高齢化によって、利用者全員が外出できる機会が少なくなってきたものの、気分転換やストレス解消、五感刺激の機会として、できるだけ外出することを心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持や使用に関しては、ご本人・ご家族の希望により管理している。 所持・使用に制限は加えていないが必要があれば助言している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話があれば、ご本人に代わりお話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故が発生しないことはもとより、利用者様が不快になるような要因が生じないことを考え、環境作りをしている。 季節の飾り付け等工夫し、居心地の良い空間作りに努めている	リビング、廊下等の共用空間は広々として明るく、静かで居心地の良い空間となっている。畳の部屋には、大きなこたつを用意しており、利用者が気楽に横になったり、昼寝したりできる場所として好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居場所に制限はせず、又、玄関やホーム奥に椅子を用意し、思い思いに寛げる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、馴染みのある家具や類似したものを使用できるようになっている。	利用者のお孫さんの写真や作文等が壁に貼られたり、家族にまつわる品々が飾られるなど、居室に明るさを感じられる。事業所全体が床暖房になっており、安全で居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できる」「わかる」を考えながら、安全で「気付ける事」に働きかえる工夫もしている。できる事、分かる事については見守りするようにしている。		